

平成 2 7 年 度 学 校 経 営 計 画 及 び 学 校 評 価

1 め ざ す 学 校 像

夢をかたちに！ <i>(Scale up your Dream, and Build up your Future.)</i> 生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持って、その実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し、貢献できる人材を育成する学校をめざします。 【生徒に育みたい力】 1 高校三年間の様々な体験的学習を通して、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し、社会人として自立する力。[自立] 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界中までの様々な人々と共生できる力。[共生] 4 清掃やボランティア活動を通して、基本的人権を尊重し社会に貢献できる力。[友愛]

2 中 期 的 目 標

1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む (1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。 ア、習熟度別授業（チャレンジ・スタンダード・ベーシック）と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。 イ、専門コースあるいはエリアに合わせた体験授業（看護・保育実習）を取り入れるなど、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材の活用を推進する。 ウ、ＩＣＴプレゼンテーション・ルームを開設、ＩＣＴを活用したプレゼンテーション能力開発授業を研究・推進する。（学校経営推進費対象事業） エ、語学や地歴教育など多様で総合的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。 オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。 ※学校教育自己診断アンケートにおいて、エリア・科目選択に関する授業への満足度。(H26:74.7% H27:75% H29:80%) ※授業アンケートにおいて、授業への教材（ＩＣＴ等）活用を行った教員の授業への満足度。(H26:83.7% H27:84% H29:90%)（学校経営推進費対象事業） ※学校教育自己診断アンケートにおいて、プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率。(H26:49.5% H27:70% H29:90%) ※国公立大学・難関私立大学（関関同立・近・関外大）進学者数、児童保育系進学者数、看護医療系進学者数。(H26:29名 H27:40名 H29:50名)（児童保育・看護は対前年+10名を継続。 H26実績 児童保育系 24名 看護医療系 21名） 国公立大・難関私大進学者をグローバル人材（20%）、児童保育・看護医療・他進学者を地域社会貢献型グローバル人材（80%）と考え、そういった人材を輩出する進学校をめざす。 ※進路希望実現満足度。(H26:68% H27:80% H29:90%) (2) 特色ある三つの専門コース(アドバンスト人文社会・子どもみらい・看護メディカル)を持つ普通科専門コース設置校として、新しい公立高校のカタチを探求する。 ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、より生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスしていく。 イ、コース選択時の生徒満足度をあげるとともに、特色ある専門コースを選択する生徒の全生徒比率 40～50%を目途にバランス良くガイダンスしていく。 ウ、もっと入りたい学校へ。入試志願者倍率の向上をめざす。 ※ガイダンスに関する満足度。(H26:75.3% H27以降は対前年増を継続) ※入試志願者倍率。(H26:1.34倍 H27:1.37倍 H29:1.4倍) (3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。 ア、総合的な学習の時間とLHR等を活用して、志学・キャリア教育・人権教育・進路指導が系統的に結合した「統合キャリアプログラム」を確立する。 イ、分野別進路説明会を開催するとともに、「進路適性検査」などを活用し、選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。 ウ、社会保険労務士や司法書士などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。 ※進路選択やキャリア教育に関する満足度。(H26:74.7% H27:75% H29:80%) 2. 社会道德教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む (1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道德教育を推進する。 ア、「いじめ防止基本方針」に従い、「いじめ防止対策委員会」中心に、年間計画に沿って実施する。 イ、基本的生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。 ※命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった。(H26:61.3% H27:65% H29:70%) ※生徒一人当たり平均遅刻回数。(H26:5.9回 H27:5回以下 H29:3回以下) (2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取り組みを推進する。 ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。 イ、保護者への啓蒙活動も文書等により引き続き行うとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切にしたい人権教育の充実を図る。 ※生徒向け教育相談に関する満足度。(H26:60.2% H27:61% H29:70%) (3) 各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図るとともに、活動の成果を対外的にアピールする。 ア、保健部や保健委員会を中心にした地域での清掃活動等の取り組みを推進する。 イ、生徒会を中心にしたボランティア活動の取り組みを推進する。 ウ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。 ※地域清掃参加者数。(H26:20名 H27:24名 H29:30名) ※部活動加入率。(H26:55.5% H27:60% H29:65%) (4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取りいれるとともに、HP等で学校の特色ある取り組みを紹介する。 ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。 ※教育活動に関する満足度。(H26:85.4% H27:86% H29:90%) ※教育情報についての提供努力満足度。(H26:83.9% H27:85% H29:90%) 3. 生徒理解を促進し相談体制を充実させる (1) 生徒支援委員会の設置に伴い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。 ア、「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。 (2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。 ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談についても相談体制を構築し周知徹底する。 ※生徒向け教育相談に関する満足度。(H26:60.2% H27:61% H29:70%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 27 年 12 月実施分〕	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ①エリア科目選択に関する授業満足度(74.2%/目標 75%)・・・前年ほぼ横ばい ②ICTを活用した授業満足度(90.6%/目標 84%)・・・前年 83.7%から大幅に改善 ③プレゼンテーション能力向上満足度(59.8%/目標 70%)・・・前年 49.5%から大幅改善 ④国公立・難関私大進学者数(26 名/目標 40 名)・・・対前年微増（今年度から現役合格に限定） ⑤児童保育系・看護系進学者数(20 名/目標 30 名)(43 名/目標 30 名)・・・概ね達成 ⑥進路希望実現満足度(70.9%/目標 80%)・・・・・・・・・・前年から 3.0% 改善 ⑦ガイダンスに関する満足度(76.1%/目標 76%)・・・・・・・・・・前年ほぼ横ばい ⑧入試志願者倍率(1.20 倍/目標 1.37 倍)・・・・・・・・・・志願者の数は前年並み ⑨進路選択やキャリア教育に関する満足度(75.2%/目標 75%)・・・・・・・・前年ほぼ横ばい ※②③は学校経営推進費対象事業となっております。 【生徒指導等】 ①命の大切さや社会のルールを学ぶ機会に関する満足度(63.1%/目標 65%)・・・前年 2.0 %改善 ②平均遅刻回数(5.9 回/目標 5 回以下)・・・・・・・・・・前年 8 回（最終数字） ③教育相談に関する満足度/生徒(57.8%/目標 61%)・・・・・・・・・・前年 2.4%ダウン ④教育相談に関する満足度/保護者(82.8%/目標 85%)・・・・・・前年 2%ダウン ⑤教育情報の提供についての満足度/保護者(80.9%/目標 85%)・・・・・・・・前年 3%ダウン 【学校運営】 ①地域清掃参加者数(26 名/目標 24 名)・・・その他、支援ボランティア 24 名、保育ボランティア 6 名 ②部活動加入率(59.7%/目標 60%)・・・・・・・・・・1 年生を中心に、対前年 4.2%増 ③学校行事に関する満足度(64.3%/目標 66%)・・・・・・・・・・前年ほぼ横ばい	【第 1 回 6/5】 ・<u>プレゼンテーション能力を伸ばす授業</u>の推進をお願いしたい。就職時にはプレゼンテーション能力が何度も何度もチェックされ、出身大学名だけでは合格できない現実を学校はしっかりと認識してください。具体的には「NHK のプレゼンテーション番組を見せる」「来年の創立 30 周年事業に生徒のプレゼンテーションの要素を取り入れる」など検討してはどうだろう。 ・1 年生を中心に部活加入率が伸びてきていることが素晴らしい。一生懸命になる大切さを学ばせるとともに、生徒に高校生活での居場所をしっかりと作ってやってください。 ・進路実績をもっとビジュアル化。対前年比較した表・グラフにしてみたらどうだろう。 ・創立 30 周年事業について、現役の在校生・教職員を主役にした式典にしてください。PTA・後援会・同窓会等は支援組織ですので全力でそれを応援していきます。予算は生徒達のために使ってください。大人だけの祝賀会は不要だと思います。卒業生に著名人がいれば講演依頼してはどうか。学校の史料・資料をきちんと整備保管してほしい。20 周年事業ではそこが十分できていなかった。 ・国際交流の活発化。定期的な交換留学の推進。 ・学校独自の選挙教育を考えてほしい。市議会見学も検討してはどうだろう。 【第 2 回 10/30】 ・授業アンケート結果を PDCA でしっかり分析運用してください。またアンケート結果を保護者が知り、積極的に家庭内でのあるいは学校とのコミュニケーションに役立てていく仕組みが欲しい。 ・「<u>キーコンビテンシー</u>」を取り入れたキャリア教育を検討してはどうだろう。すべての教育がキャリア教育に繋がっていて、さらに職業体験をへて親の生き方を肯定できるようになったり、有名人の挫折した体験を聴くことから生き方を学んだりする子どもも多い。 ・自分たち日本人のルーツを学ぶ学習に力を入れ、その上に国際人としての感覚を積上げてほしい。 ・政治に関する授業は中立性・公平性を保つことが難しい。基礎的な教養を積むには税金の集め方・使い方から学ぶのが良いのではないか。 ・田尻町の関西国際交流センターなど、<u>地域内で外国人と交流できる施設</u>をもっと活用したらどうか。 【第 3 回 1/29】 ・選挙制度の変更にともない、<u>模擬投票や議会見学</u>などに取組んでみてはどうか。 ・<u>コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成</u>には引き続き積極的に取組んでほしい。大学に於いても今の学生は、提案や指導案がしっかり書けていても、実際にプレゼンテーションさせてみると全くできないことが多い。いろいろな場や形態を設定しプレゼンを行わせることは非常に良い。 ・パワーポイントなどプレゼンテーション・ソフトを使うことは巧みで、見ための華やかさはあるが、いたずらに ICT 活用技巧に走るのではなく、語る・伝えるという最も重要で基本的な力を養えるよう注意してほしい。 ・保護者向けアンケートの内容が、判断しにくい問いやどう答えていいかわからない質問があり書きにくい。 ・履修選択のシステムについて、専門性の高いコース設定も良いが、高校生活 3 年間の中で進路希望変更が起きてくるのは当然のことなので、<u>過不足の発生しないよう大きな枠でくくっておいてよい</u>のではないかと。 ・教科を越えた教員間での連携の数値が低くなっているので、改善すべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む	(1)わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。	(1)ア、英・数・国の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベシック 3 段階の習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸展を図る。 イ、実践的な専門演習科目を確立し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験する。 ウ、専用の ICT 教室を活用し、プレゼンテーション能力開発の授業を研究・推進する。 エ、語学や地歴教育等、多様で総合的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。 オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。	(1)ア、「エリア科目選択に関する授業への満足度」75%。 「家庭学習時間」2 時間 イ、体験的学習延べ 30 時間/全校 ウ、「ICT 活用授業を行った教員への満足度」84%。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」70%。 オ、国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数+10 名。児童保育系進学者数+10 名。看護医療系進学者数+10 名。進路希望実現満足度 80%。	ア) イ) エリア科目選択満足度は、ここ数年横ばい。人数制限の影響で伸びにくい(○)。家庭学習時間は 63 分。未達だが、対前年では 15%アップ。引き続き校内での自習・講習のインフラと機会の整備につとめ改善に繋ぐ(△)。体験的学習時間(53 時間)は、専門コースに力を入れたこともあり大幅に増えた。カリキュラムの工夫等、更なる改善をめざす。(◎) ウ) 授業の ICT 化、プレゼンテーション力向上は、大きく伸びた。目標数値が高いため目標には届かなかったが極めて順調である。(◎)(○) オ) 国公立難関私立大学 26 名(△) 児童保育系進学者数 20 名(△) 看護医療系進学者数 43 名(◎)
	(2)特色ある三つの専門コースを持つ普通科高校として、新しい公立高校のカタチを探求する。	(2)ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスしていく。 イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。 ウ、もっと入りたい学校への魅力づくり。	(2)ア、「進路決定に関する満足度」76% イ、専門コース選択比率目標 アドバンスト人文・社会 20% 子どもみらい 30% 看護医療 20% ウ、入試志願倍率 1.37 倍。	ア) イ) コース内容とその選択に関わるガイダンス機能については、総合選択制と専門コース制が並行する移行期間であるため、生徒・教師とも若干の混乱も見られた。概ね希望を満足させることはできたと考えるが、カリキュラム編成・体験的学習機会も絡め、総合的に改善する余地がある。(○) ウ) 志願倍率 1.20 倍(△)
	(3)進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。	(3)ア、志学・キャリア教育・人権教育の統合キャリアプログラムを確立し推進する。 イ+ウ、分野別進路説明会、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。	(3)「進路選択やキャリア教育に関する満足度」75%。	ア、イ、ウ) 統合キャリアプログラムが完成整備され、民間出身校長や看護師等、従来の外部人材に留まらぬ多方面の人材を活用した。(◎)

2 社会道德教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む	(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道德教育を推進する。 (2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取り組みを推進する。 (3) 各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図るとともに、活動の成果を対外的にアピールする。 (4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取りいれ、HP 等で学校の特色ある取組を紹介する。	(1) ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。 イ、基本的生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。 (2) ア、インターネット上の諸問題(ツイッター、ライン等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年 HR 等で、その問題に対する取組みを継続する。 イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。 (3) ア、保健部・保健委員会を中心とした地域での清掃活動等の取組みを推進する。 イ、生徒会を中心にしたボランティア活動の取組みを推進する。 ウ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。 ・吹奏学部（小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等） ・美術部（商業施設や文化施設での展示発表） ・茶道部（商業施設での国際交流連携） ・女子バレー部（地域 33 中学校を対象とする日根野杯開催によるバレー・体育振興） (4) ア、保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。	(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」65%。 イ、平均遅刻回数 5 回以下 (2) ア、生徒向け「教育相談に関する満足度」61%。 イ、保護者向け人権学習会の開催 1 回。 (3) ア+イ、地域清掃活動参加者数の増加。24 名。 ウ、部活動加入率 60%。 地域社会貢献活動 新規 1 件。 (りんくう花火大会実行委員会活動への参加を計画中) (4) ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」86%。「教育情報についての提供努力満足度」85%。 学校情報の一斉メール配信システムの導入。 学校自己診断・授業アンケートの分析方法の再検討。	ア、イ) 対前年で 2 %程度改善している。生指事案も 70%減するなど改善傾向は著しいと考える。引続きいじめ事案の顕在化に留意し対策を講じる (○) 遅刻については前年から現在で 25%減(△) ア) 引続き、スマホの使い方講座を主体に展開した。一方で、スマホに関わる問題発生が安定してきた部分もあり、教育相談機会としては減少した。(○) イ) 外部人材講師による人権学習を展開。参加した保護者から高い評価を得た内容であった。(◎) ア、イ) 参加者数は大きくは増えないが、年数回の支援・保育ボランティア活動を通じ、地元へ大きく貢献している。引続き参加者の輪を拡大する働きかけをする (○) ウ) 部活加入率は対前年 5%アップ。目標をほぼ達成したと言える。1 年生の加入実績が好影響しており、今後同じような声かけを継続していければ、目標数値達成が実現し、また学校全体としての数値目標を上げることができる。(◎) ア) 学校情報の一斉メール送信システムを導入したため、学校一家庭の風通しは格段に改善された。 引続き、メールや HP を通じ、学校行事・クラブ活動などの情報発信機会を拡大するとともに、地元中学や学習塾、泉佐野市との連携を強化し、地元から評価される学校づくりをめざす。(△)
3 生徒理解の促進と相談体制の充実	(1) 生徒支援委員会の設置に伴い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。 (2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。	(1) ア、生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。 (2) ア、体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し周知徹底する。	(1) (2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」61%。	・主担教員に限らず全校で、予防的な教育相談機能を充実させた。具体的には校内研修を積極的に開き、ピアサポートの導入など新たな取組みも取り入れ、全体として手厚い体制をとった。(△) ・体罰、ハラスメントをはじめ、網紀全般に関わる校内研修を積極的に開き、生徒たちの相談窓口としてふさわしい教職員集団づくりを実践していく。 (○)